



NPO やまぶき工房 でオーダー革財布が出来るまで

やまぶき工房
紹介編

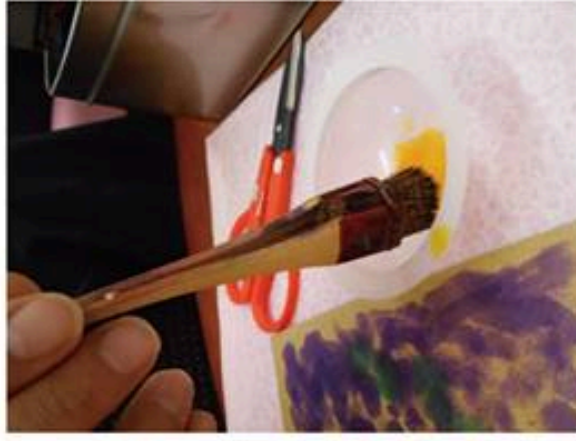
赤いテントが目印の工房は、横浜市戸塚区、神奈中バス「舞岡」のバス停下車、徒歩1分のところにあります。ガラスの引き戸を開けると、工房内にはお日様の光が差し込んでとても明るいのです。通所者のみなさんは革に模様を付けたり縫合したりと、それぞれの作業をそれぞれのペースで行っています。例えば印鑑ケースを作っている人もいれば、アクセサリーを作っている人もいます。また、一つの作品を一人で仕上げる人もいれば、得意な作業を任されて行う人もいます。その日近くに座った人同士で会話が弾むと工房内には笑い声が溢れ、和やかな雰囲気の中で誇りを持って作業されています。



革に刻印を打ちつけて模様を写しています



革を加工する時の道具の一部です



革専用の染料を使い着色します。主に使う革は仕入れた段階では薄いベージュです



革を縫うときは 先に縫うための穴を開けそこに糸を通していきませます やまぶき工房では縫いの他にかがりという手法も用います

マルエツの脇の道を入れてください



すぐ左側の黄色い看板の建物です



ラカップさんの似顔絵



やまぶき工房は戸塚区舞岡町にある障害者の通所施設です。革細工を主な作業としています。色々な活動への参加を通して通所者の皆様の生活が充実するよう援助することを目的としています。

ラカップ久美子 施設長

